

●新会員代表者紹介

坂井 東洋男 (さかい とよお)



追手門学院大学
学長

落合正行前学長の退任に伴い、七月二十八日付で、坂井東洋男追手門学院学院長が学長に就任した。

坂井新学長は昭和十八年京都市生まれ。昭和四十四年神戸市外国語大学外国語学部中国語科卒業。昭和四十七年京都大学大学院文学研究科修士課程(中国語学中国文学専攻)を修了。京都大学文学修士。昭和五十年京都産業大学外国語学部講師、助教授を経て、昭和六十二年教授。また、図書館長、外国語学部長等を歴任。平成十四～二十二年まで同大学学長を三期務めた。学外では、大学コンソーシアム京都副理事長、日本私立大学連盟理事等を歴任した。

町田 睿 (まちだ さとる)



東北公益文科大学
学長

黒田昌裕前学長の退任に伴い、四月一日付で町田睿氏が第三代学長に就任した。任期は二年間。

新学長は一九三八年秋田県生まれ。一九六二年東京大学法学部を卒業後、(株)富士銀行に入行、同行の取締役総合企画部長、常務取締役を経て、一九九四年に(株)荘内銀行代表取締役副頭取、一九九五年には同行代表取締役頭取に就任する。現在は、二〇〇九年に設立されたフィデアホールディングス(株)の取締役兼取締役会議長をはじめ、(株)北都銀行取締役会長、(株)荘内銀行取締役相談役を務めている。なお、大学関係では、二〇〇四年十二月から

●新学長紹介

山崎 純一 (やまざき じゅんいち)



東邦大学
学長

青木継稔前学長の任期満了に伴い、七月一日付で山崎純一医学部教授が学長に就任した。任期は二〇一五年までの三年間。

山崎新学長は一九五〇年埼玉県生まれ。一九七六年に東邦大学医学部を卒業し、医師免許取得後、東邦大学医学部内科学第一講座に入局。二年間の米国留学を経て一九八五年医学博士号取得。循環器内科の第一線で診療・教育・研究に従事し、講師・助教授を経て、一九九八年に教授に就任した。二〇〇〇年から東邦大学医療センター大森病院の副院長、病院長(学校法人理事を兼務)を務めた。この間、東京都勤務医委員会の委員長を二年間務

主たる研究分野は、魯迅や郁達夫などを主とする中国近代文学。当該分野は時の政治の動きに影響を受けがちであったが、一貫して政治の呪縛からは自由な立場で、表現の内面的な分析のを絞った論評を加えてきた。また、文化革命後の「朦朧詩」(象徴詩)の研究では草分け的な存在。一九七九年、中国社会科学院文学研究所の招聘を受けての講演「芥川龍之介と魯迅」は、その後、中国でも盛んになる比較文学研究の先鞭をつけるものとなった。論文の多くが中国語に翻訳紹介されている。

学校法人追手門学院は明治二十一年に西日本最古の私立小学校として、大阪偕行社附属小学校を創設して以来百二十四年。幼稚園から大学院までを擁する総合学院である。

新学長は、その伝統は誇るべきことだが、伝統はあくらをかくものでも、しがみつくものでもないとし、「温故創新」をモットーに先人諸氏の雄志に立ち返りつつ、時代や社会の動きを視野に、「社会有為」の学院として改革に力を尽くす意向である。

前任校での八年間の学長経験、人柄から大学の改革を期待されている。

学校法人東北公益文科大学理事を務めているほか、国立大学法人秋田大学理事、国立大学法人山形大学経営協議会委員、学校法人ノースアジア大学客員教授などに就任している。

東北公益文科大学は、二〇〇一年四月に山形県及び庄内全市町村による公設民営方式で、山形県酒田市に設立された。今年四月から町田学長を迎え、「地域、そして世界に有為な人材を庄内から」との理念を实践すべく、大胆な改革に踏み出している。

新学長は就任にあたり、「日本全体が閉塞感に包まれ、ものすごい勢いで時代が変わりつつある。そういう意味でグローバルな人材を輩出していくことが、地方においても非常に大事。明治維新と同じように、『独立自尊』の精神を備え、自立して自分の目標、夢を實現していきけるようなたくましい人材を育てていきたい」と抱負を述べる。

趣味は囲碁で日本棋院五段の腕前。ほかに小唄の名取という一面もある。好きな音楽になぞらえ、「学長はオーケストラの指揮者の役目。教職員の先頭に立って調和のとれた大学づくりをしていきたい」と語る。

めたほか、日本心臓核医学会理事長はじめ、国内外の多数の学会で理事・評議員を歴任している。主要な著書は『症例でみる三次元心臓核医学検査』『症例からはいる心臓核医学マニユアル』などである。

「自然・生命・人間」を建学の精神とする東邦大学は、医学・薬学・理学・看護学の四学部を擁する自然科学系総合大学であり、医学部付属の三病院を実習施設として、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等の医療系の人材育成に努めてきた。これまで四学部で導ってきた教育をさらに充実させ、早期から導入してきたテュートリアル教育を強化し、学生の自立的学習を促す。本学の特徴を生かした四学部の有機的連携を強化し、充実した教育・研究支援、国際交流の発展、産学連携、がん医療の充実、科学研究費を含めた外部資金獲得、女性研究者への支援などを旨とする。

山崎新学長は、来たるべき二〇一五年の創立九十周年、さらには百周年も見据え、自然科学系総合大学としての確固たる基盤を築くべく、歴史と伝統を尊重しつつ、今後改革・改善に積極的に取り組む決意である。